

日時:2013年7月31日(水) 11:40~12:00 (於 東京証券取引所 兜クラブ)

Q:記者からの質問

A:当社よりの回答

Q:キャリアネットワークにおいて、受注高を大きく押し下げた要因は何でしょうか。

A:前年度に受注した大型案件である海洋地震観測システムが、今期、端境期(前年同期比約20億円減)となり、キャリアネットワーク全体としても受注減となりました。

Q:企業ネットワークにおいて、若干受注が減少しておりますが、何か気にすべき要因といったものはあるのでしょうか。

A:受注については計上タイミングの問題で、四半期単位で前年対比すると、大きく上下することがあります。今期1Qの場合は前年4Qへの前倒しの影響などで、前年同期比でマイナスとなったものです。景況感の改善がまだIT投資につながっている訳ではありませんが、底堅く推移していると考えております。

Q:6月にキューアンドエー社(以下、QAC社)を連結会社化した理由を教えてください。また、その際に、元々子会社であった第一アドシステム社(以下、DAS社)をQAC社の連結会社としておりますが、どのような理由からでしょうか。

A:QACは、技術的な問合せ対応や訪問による技術支援といった個人向けのテクニカル・サポート力を持っており、企業や官公庁向けの当社のICT提供力と組み合わせることで、新しいサービスが提供できると考えています。また、当社、QAC、DASとそれぞれが持っているコンタクトセンター・サービス基盤を統一することで、基盤が強化・効率化され、サービスの競争力が強化されます。当社としては、この共通基盤を提供し、さらにはクラウド型で外販していく考えです。

DASをQACグループとして一本化したのは、高付加価値コンタクトセンター・サービスを伸ばして行こうという狙いによるものです。DASはコンタクトセンターにおいて、通販業を中心とした多くの優良顧客に対し従来型の受付業務を中心としたサービスを行うのが得意ですが、一方QACは、データ分析やコンサルティング、プロモーションの企画といった付加価値サービスを強みとしています。このQACの強みをDASのお客様にも拡大していく考えです。

Q:QAC社は、都心部のみならず地方でも訪問サポートできる体制があるのでしょうか。

A:1000人体制で全国をカバーするオンサイト・サポート網を持っております。

Q: QAC 社の持株比率56%ということは、連結会社化はするものの、経営自体は QAC 社主体で行うという意図なのでしょうか。

A: 上場会社としてのグループガバナンスは効かせて行きますが、QAC 社にはベンチャー精神を活かした経営を行って貰いたく、今回のスキームとなっています。

以 上